



TITLE:

質疑

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑. 天界 1921, 1(12): 250-250

ISSUE DATE:

1921-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159627>

RIGHT:

質 疑

(二五) 観測部について(T、E)

- 一、部員のなすべき仕事と、地方のものが受ける指導の形式
- 二、部員は義務として一定の観測をなすべきか否か
- 三、他の仕事のために観測する時間を持たないものでも部員となり得るか否か

四、ブレテンは流星部と變光星部と別に出るかどうか、又部員は両部に入ることが出来るかどうか又は一方に入れば他に入らないでも差支ないかどうか

答。一、指導形式といつて別に定まつたものではありません、只熱心にやらうとする方にはなるべく丁寧に實際上の御世話をしますから遠慮は無用です

二、観測は義務ではありません、全く自由です

三、只、時間に差支ない時だけやつて下さればよろしい、重ねて申しますが、観測は自由意志でして下さい、義務ではありません、但し部費の擧出は義務的です

四、ブレテンは一人につき一枚です、たとひ両部に入つて下さつても、蓋し此のブレテンは流星と變光星の報知ばかりで無く他の種々な通知や報告なども載るので、部員でなくても購讀の出来る獨立刊行物ですから。(観測部)

て が み

山本古川両先生。

千 枝 子 より

京都大學で色々の星を見て、かへつてから、最早だいぶんたつております。みなさん御かはりはございませんか。多分、毎日、星を見ておいでになることと思ひます。今日は京都で見るに代つて、我がなつかしい一時のぼうえんきやうで、西の天をちよつと見物いたしました。金星を見ようにも、最早かくれて、アメリカの人が百時のぼうえんきやうで見てるかも知れないほど、とうにかくれ、私が見たのは双子座ア星を見物いたしました。私の家のぼうえんきよで見ると、のやうに見えてゐました。それから大犬ア星を見ました。今日又土星の輪を見ようとおもつて、まごから見ると、眞上なので見にくくて見るのをやめてしまひました。

消 息

新城教授の講義「東洋古代の天文學歴史」は去る二十一日より開講。山本助教は十月二十八日より毎週金曜三回にわり、京都の同志社大學で「アインシュタインの相對原理」を講演。